

感染症定期報告 感染症別文献一覧表(医療機器) (平成23年10月1日～平成24年3月31日)

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	Emerg Infect Dis. 17(2011)2018-2025	ヒト及びブタに感染したE型肝炎ウイルス(HEV)の類似性に関する報告。フランスにおいて、18か月間にわたって106例の患者と食肉処理場で収集した43例のブタが保有するHEVを調査し比較したところ、全てのHEVはジェノタイプ3に属しており、サブタイプである3f、3c、3eの割合はヒトとブタの群間で同様の割合であった。さらにヒト由来及びブタ由来のHEV配列を分析したところ、最大99%以上の類似性が認められた。これらの結果より、生の肝臓等のブタ肉製品の摂取がフランスにおけるHEVの感染経路であることが示唆された。
2	E型肝炎	J Clin Virol. 52(2011)50-54	ドイツにおけるヒトとブタが保有するE型肝炎ウイルス(HEV)の相同性に関する報告。ドイツ南東部の食料品店で販売されていたブタ肝臓の検体200例から、RT-PCRによりHEV-RNAを検出し、HEVゲノムの配列解析と系統発生分析を行った。その結果、8例(4%)からHEV-RNAが検出され、新規の分離株が2例含まれていた。これらは遺伝子型3に分類され、サブタイプは3aと3cであり、それぞれ同じ地域の急性E型肝炎患者から得られたウイルス株と高い相同性が確認された。この結果より、ヒトへのHEV感染源として、加熱不十分な豚製品が関与していることが示唆された。
3	E型肝炎	肝臓. 52(2011)A246	ヒト初代培養肝細胞へのブタ由来E型肝炎ウイルス(HEV)感染に関する報告。転移性肝臓に対する肝切除時に得られた非癌部組織からヒト初代培養肝細胞を調製し、ブタの糞便から得られた4つのジェノタイプのHEV株(G3jp、G3sp、G3us、G4jp)を感染させ増殖性について検討した。その結果、最も高い力価を示したのはG3jpであり、感染7日目の細胞の細胞質にHEV-RNAが局在していることが確認された。しかしウイルスの増殖は確認されたものの、肝細胞の細胞変性効果は認められず、培養上清中のLDH、ASTは軽度上昇を認めるのみであった。
4	インフルエンザ	Infection, Genetics and Evolution. 11(2011)1174-1177	中国におけるブタインフルエンザウイルスH6N6の同定に関する報告。南中国の4つの養豚場においてH6N6感染が発生したことを受け、このウイルス株を系統的に分析した。その結果、このウイルス株は国内のアヒル由来であると判明し、HA遺伝子は南中国で広まっているH6鳥インフルエンザウイルスのグループIIに属していた。また、HA遺伝子の配列解析から、結合ペプチドにおいて多塩基アミノ酸が欠損しており、レセプター結合部位は前駆のH6鳥インフルエンザウイルスと似ていたが、2つの遺伝子変異が認められた。また、11施設475例のブタのウイルス保有率を調査したところ、3.4%においてH6ブタインフルエンザ陽性であった。
5	インフルエンザ	Journal of Veterinary Medical Science. 73(2011)55-63	インフルエンザ(H1N1)2009ウイルスのRT-PCRによる検出手法に関する報告。インフルエンザ(H1N1)2009ウイルスを地域固有のブタインフルエンザウイルスと識別するための、マトリックス遺伝子に基づいたワンステップマルチプレックスRT-PCR分析法が開発された。この分析の感度はRNA100コピーおよび0.01 TCID ₅₀ /mlであった。これは従来のインフルエンザAウイルスに対するRT-PCR分析や、ヒト及びブタの検体から(H1N1)2009ウイルスを検出するreal-time PCRの感度と同程度であった。この分析手法は、インフルエンザ(H1N1)2009ウイルスの監視に対して良好な手段である。
6	インフルエンザ	MMWR. 60(2011)1239-1242	米国におけるインフルエンザウイルス感染の状況報告。2011年5月22日から9月3日までの米国におけるインフルエンザ活性は低いレベルで推移した。同期間において米国WHO及びNREVSSが20,868例の呼吸器系検体のウイルス検査を行ったところ、122例(0.6%)がインフルエンザウイルス陽性であった。そのうち87例(71%)がA型であり、24例がインフルエンザA(H3N2)、15例が2009インフルエンザA(H1N1)ウイルスであった。その一方で、新規ブタ由来インフルエンザA(H3N2)ウイルスの感染例が8月から9月にかけて報告されている状況である。
7	インフルエンザ	PLoS ONE. 2011; 6: e119409	日本におけるインフルエンザ(A/H1N1)2009罹患率の性差及び年齢差に関する報告。インフルエンザ(A/H1N1)2009の罹患率について、国内の定点調査データより感染例2,024,367例を対象にレトロスペクティブに調査したところ、罹患率のM/F比は20歳未満及び80歳以上の集団で>1であり、20歳以上80歳未満の集団では<1であった。成人世代でみられた性差の逆転は、成人男性における無症状感染の多さや、獲得免疫の大きさ、医療機関の受診率の低さが原因である可能性がある。

感染症定期報告 感染症別文献一覧表(医療機器) (平成23年10月1日～平成24年3月31日)

ID	感染症(PT)	出典	概要
8	インフルエンザ	ProMED-mail 20110902.2685 MMWR. 60(2011)1213-1215 PIG PROGRESS. Sep 5, 2011 The Pig Site. Sep 6, 2011 The Pig Site. Sep 13, 2011	米国におけるブタインフルエンザウイルスA(H3N2)感染の報告。2011年8月、米国においてH3N2ウイルスが原因の熱性呼吸器疾患症例2例が報告された。1例目はインディアナ州の5歳未満の男児で、ブタとの接触歴はないがブタに直接接触したケアワーカーが発症2日前に男児の世話をしていた。もう1例はペンシルバニア州の5歳未満の女児で、ブタ等の動物に直接接触していた。2例とも回復している。また、2例の間に疫学的な関連性は確認されていない。本ウイルスは2009年以降に米国にて確認されたH3N2弧発例としての感染8例から検出されたウイルスと類似しているが、2009年のインフルエンザA(H1N1)ウイルスに由来する遺伝子セグメントが確認され、本ウイルスが再集合体であることが示唆された。
9	インフルエンザ	ProMED-mail 20110906.2723 AASV News archive. Sep 9, 2011	米国における新規インフルエンザ感染の報告。ペンシルベニア州衛生農業局は2011/9/2、新型インフルエンザAウイルスに感染した小児3例が確認されたことを発表した。分離されたウイルスはブタ由来H3N2ウイルスであるがH1N1ウイルスの遺伝子成分を含んでいた。3例は共に州南西部で行われた農業フェアに参加していた。衛生農業局は住民に対して、ウイルス拡大に注意を払い動物に触れた際は手を洗うよう注意喚起を行っている。
10	インフルエンザ	PIG PROGRESS. Sep 8, 2011	米国におけるブタインフルエンザウイルスA(H3N2)感染の報告。米国ペンシルバニア州は、ブタ由来H3N2ウイルスへの感染が確認された3例の患者について、同州南西部で2011年8月に行われた農業フェアと関連があると発表した。1例目の患者は回復し、残りの2例も回復に向かっている。
11	インフルエンザ	ProMED-mail 20111021.3134 ProMED-mail 20111102.3260	米国におけるブタインフルエンザウイルスA(H3N2)感染の報告。米国メイン州保健当局は、同州で新規ブタインフルエンザ感染が報告されたと発表した。患者は小児で、2011年10月初旬の農産物品評会にて豚と接触したことが原因として疑われている。患者は入院しておらず、回復に向かっている。同定されたウイルスは以前米国にて4症例が報告されたブタインフルエンザA(H3N2)ウイルスに類似しており、2009年世界的流行のH1N1ウイルスの構成遺伝子を含んでいることが分かった。
12	インフルエンザ	ProMED-mail 20111105.3298	米国におけるブタインフルエンザウイルスA(H3N2)感染の報告。2011年11月、米国疾病予防管理センター(CDC)は、散発的にブタから感染しているインフルエンザ症例が新たに2例報告されたと発表した。メイン州とインディアナ州の2例で、2011年7月からの米国患者の総数は7例、ほとんどが幼児の症例である。CDCによると、このウイルスに対するワクチンの原種株はすでに作成し、ワクチン製造業者に分与しているという。
13	インフルエンザ	ProMED-mail 20111119.3411 The Pig Site. Nov 17, 2011	香港における新規ブタインフルエンザA(H3N2)ウイルス感染の報告。香港の食肉処理場において、2011年8月から10月に採取されたブタ検体1000例の検査の結果、15例に一部ヒト遺伝子が組込まれた新型ブタインフルエンザA(H3N2)ウイルスが発見された。5月から7月に行われた前回のサーベイランスでも、16例のブタで確認されていた。このウイルスは米国において散発している新規ブタインフルエンザA(H3N2)とは異なるウイルスであると説明されている。
14	インフルエンザ	CDC/MMWR. 60(2011)1615- 1617 The Pig Site. Dec 5, 2011 ProMED-mail 20111123.3430 ProMED-mail 20111124.3438 ProMED-mail 20111125.3448	米国におけるブタインフルエンザウイルスA(H3N2)感染の報告。2011年11月、アイオワ州においてS-OtrH3N2に感染した小児3例が報告された。全員入院はしておらず、既に回復している。3例は互いに接触しており、最近のブタへの接触はなかった。S-OtrH3N2のヒト感染は未だ確認されておらず、調査が進められている。今回の3例を含めて、近年S-OtrH3N2の感染が10症例報告された。このウイルスは北アメリカのブタの間で循環しているブタインフルエンザウイルスA(H3N2)とパンデミック2009年インフルエンザウイルスA(H1N1)との再集合体であると考えられている。

感染症定期報告 感染症別文献一覧表(医療機器) (平成23年10月1日～平成24年3月31日)

ID	感染症(PT)	出典	概要
15	インフルエンザ	ProMED-mail 20111203.3526	新規ブタインフルエンザA(H3N2)ウイルスのワクチンに関する報告。米国疾病予防管理センター(CDC)は、2011年に散発している新型のブタインフルエンザウイルス株用のワクチン開発に着手したと発表した。このウイルスは2011年までに米国の4つの州において10例の感染症例が報告されている。
16	インフルエンザ	ProMED-mail 20111210.3563	米国におけるブタインフルエンザAウイルス感染の報告。米国疾病予防管理センター(CDC)は、ウエストバージニア州とミネソタ州において、2種類の異なるブタ由来インフルエンザAウイルスの感染例が報告されたと発表した。ウエストバージニア州の症例は、他の4州でも散発している新型ブタインフルエンザA(H3N2)ウイルスへの感染であった。一方、ミネソタ州の症例は米国のブタの間で循環しているインフルエンザA(H1N2)ウイルスに感染した報告であった。今回の患者はいずれも、発症前のブタとの接触は報告されていない。それぞれのウイルスはオセルタミビルとザナミビルに対して感受性があった。
17	インフルエンザ	http://www.cdc.gov/media/haveyouheard/stories/Influenza_A_Variant.html	米国におけるインフルエンザA(H1N1)変異ウイルス出現の報告。米国ウィスコンシン州で、ブタ集団で循環が知られているH1N1ウイルスのヒト感染例が初めて報告された。本症例は発症前にブタに接触しており、ヒト-ヒト感染は未確認である。疾病予防管理センター(CDC)は、このウイルスが2009年パンデミックH1N1ウイルス由来のM遺伝子を保有している新たな再集合ウイルスであることを確認した。このウイルスはオセルタミビルとザナミビルに対して感受性があった。
18	インフルエンザ	ProMED-mail 20111224.3669	米国におけるブタインフルエンザA(H3N2)ウイルス感染の報告。米国の公衆衛生当局は、新たにウエストバージニア州の小児のH3N2ウイルス感染患者1例を確認した。米国において、2011年7月に感染例が初めて報告されて以降12例目の報告である。本症例はブタではなく、他のヒトから感染したことが確認され、患児の住むコミュニティ内である程度のヒト-ヒト感染が起きていることが示唆された。
19	インフルエンザ	MMWR. 60(2012)1741-1744	米国におけるインフルエンザA(H3N2)v感染の報告。インフルエンザA(H1N1)pdm09ウイルスのマトリックス(M)遺伝子を有するインフルエンザA(H3N2)vウイルスによるヒト感染症について、直近の3例について報告された。インディアナ州の成人男性は2011年10月20日に発熱、咳、体の痛み等が発現した。発症前週にブタと直接接触过していた。4日間入院したが、軽快している。ウエストバージニア州の小児2例(5歳未満)は同じ保育所に通っており、1例は11月19日、他の1例は11月29日に熱症状などが発現した。2例とも最近の渡航歴や豚との接触歴がなく、ヒトからヒトへの伝播と考えられた。
20	インフルエンザ	The Veterinary Journal. 187(2011)200-206	中国のブタ集団におけるインフルエンザウイルスの抗体保有率と遺伝的特徴に関する報告。中国のブタにおける10年間(1999-2009年)のインフルエンザ抗体保有率を調査するために、これまで発表されている文献のレビューとプールされたデータの分析が行われた。その結果、中国のブタの中でサブタイプH1, H3, H5及びH9の抗体が検出されており、サブタイプH7を保有しているブタはなかった。その中でサブタイプH1の抗体保有率が最も高く、また地理的バリエーション、ばらつきがあり、南部及び東部のブタにおいて特に保有率が高かった。血清学的及び遺伝学的研究から、サブタイプH1, H3, H5, H9は現在共循環の関係にあることが示唆された。
21	インフルエンザ	獣医畜産新報. 1075(2011)97-102	ブタインフルエンザウイルスに関する解説。日本において養豚産業におけるブタインフルエンザは高い伝播性や混合感染における重篤化にも関わらず、単独感染の致死率が低く予後も良好であることから産業上の重要性が明らかにならなかった。2009年のパンデミックウイルスの出現により、人獣共通感染症としての観点や新型インフルエンザウイルスの培養器としての役割からようやく重要性が理解され始めている。このウイルスの生態を理解すると共に、ブタからヒト、ヒトからブタへの感染を防ぐことによって公衆衛生、家畜衛生上の被害の軽減に努める必要がある。
22	インフルエンザ	日本獣医師会雑誌. 64(2011)177-183	哺乳動物のインフルエンザに関する解説。インフルエンザウイルスは哺乳動物を含めてほとんど全ての動物に感染する。しかし、感染が広がり、その動物種に病原体として定着するには、多頭数伝播によるウイルスの維持が必要である。群生活(飼育)を行わない野生動物などに感染しても感染鎖の欠如から問題になることは少ない。しかし、確率は低いとしても、全ての哺乳動物にはパンデミックに繋がる変異ウイルスを生み出す潜在性があることを認識すべきである。

感染症定期報告 感染症別文献一覧表(医療機器) (平成23年10月1日～平成24年3月31日)

ID	感染症(PT)	出典	概要
23	鳥インフルエンザ	ProMED-mai 20111224.3666	香港におけるトリインフルエンザの報告。香港政府当局は、今週1週間で2羽発見されていた鳥の死骸を検査した結果、2羽目となる死骸でトリインフルエンザ(H5N1)ウイルス陽性が確認されたことを明らかにした。15000羽のニワトリを含む19451羽の鳥が処分された。
24	鳥インフルエンザ	ProMED-mai 20120122.0160	中国におけるトリインフルエンザのヒト感染の報告。2012年1月22日、中国衛生部により、中国西南部のにおいて39歳の男性患者1例が高病原性トリインフルエンザ(H5N1)ウイルス感染により死亡したと報告された。この患者は6日に発熱し、22日に貴州省で死亡した。当局によりH5N1感染が確認されている。男性と直近に接触のあった71人については、今のところ健康状態に問題はないと発表された。
25	鳥インフルエンザ	Vet J. Sep 21, 2011	高病原性トリインフルエンザ(H5N1)発生の時間空間的分析に関する報告。グローバルデータベースを利用して、2003年から2009年間のH5N1感染の集団発生に関する時間的/空間的特徴を調査した。その結果、時間経過により次第に流行の開始日の遅延、流行期間の長期化、アウトブレイク頻度の低下が観察されたが、感染サイクルの効率的な消滅は見られなかった。また、H5N1感染のホットスポットが2か所確認され、1つはすでに知られている東南アジアであったが、もう1つは欧州とアフリカの境界で新規の場所であった。これらの場所においてはサーベイランスを強化する必要がある。
26	ウエストナイルウイルス感染	http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/surv&control/CaseCount11_detailed.htm	米国におけるウエストナイルウイルス(WNV)感染症例数の報告。2011年11月29日時点で、米国においてWNV感染が658例報告され、そのうち神経侵襲性の症例が452例、非侵襲性症例が206例であった。死亡例は40例報告されている。
27	日本脳炎	PIG PROGRESS. Dec 23, 2011	インドにおける日本脳炎の報告。デリーにおいて食肉処理されたブタ17例の血液検体から日本脳炎ウイルスに陽性反応を示したことを受け、政府とデリー自治体は蔓延防止のための協力体制をとった。感染経路の特定のために、デリー内外の養豚場から集められたブタ検体100例が集められ、検査が進められている。
28	日本脳炎	ProMED-mail 20111227.3682	インドにおける日本脳炎の報告。デリーにおいて、日本脳炎の陽性患者が14例報告された。これを受けて、首都保健当局により大規模なヒト及び動物の血液検査が行われた。インドールの公立病院では、8ヶ月間で140例以上が脳炎で死亡している。
29	口蹄疫	OIE 2011 April 11	ブルガリアにおける口蹄疫:発生日 2011年1月4日、最初の確定日 2011年1月4日、報告日 2011年4月11日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年4月7日にブルガスで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。感染の疑い例ウシ45頭、ヒツジ356頭、ブタ6頭、確定例ウシ11頭、ヒツジ5頭、ブタ0頭、死亡例0頭、屠殺例ウシ11頭、ヒツジ356頭、ブタ6頭であった。
30	口蹄疫	OIE 2011 April 29	韓国における口蹄疫:発生日 2010年11月26日、最初の確定日 2010年11月29日、報告日 2011年4月29日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年4月19日にキョンサンプクトで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて、感染の疑い例2800頭、確定例21頭、死亡例0頭、屠殺例21頭であった。
31	口蹄疫	OIE 2011 July 21	中国における口蹄疫:発生日 2010年2月22日、最初の確定日 2010年2月28日、報告日 2011年7月21日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年7月13日に貴州で口蹄疫のアウトブレイクが発生した。感染の疑い例ウシ73頭、ヒツジ197頭、ブタ124頭、確定例ウシ46頭、ヒツジ9頭、ブタ78頭、死亡例0頭、屠殺例ウシ73例、ヒツジ124頭、ブタ197頭であった。
32	口蹄疫	OIE 2011 October 18	中国における口蹄疫:発生日 2010年2月22日、最初の確定日 2010年2月28日、報告日 2011年10月17日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年10月16日に寧夏回族自治区で口蹄疫のアウトブレイクが発生した。感染の疑い例ウシ389頭、ヒツジ293頭、確定例ウシ26頭、ヒツジ0頭、死亡例0頭、屠殺例ウシ389例、ヒツジ293頭であった。

感染症定期報告 感染症別文献一覧表(医療機器) (平成23年10月1日～平成24年3月31日)

ID	感染症(PT)	出典	概要
33	口蹄疫	ProMED-mai 20111011.3047	中国における口蹄疫の報告。2011年10月10日、中国農業省チベット自治区において口蹄疫に感染したウシ7例が報告されたと発表した。感染が確認されたのは9月30日で、原因は口蹄疫ウイルスO型であった。
34	口蹄疫	ProMED-mail 20110323.0910	ロシアにおける口蹄疫:発生日 2011年3月13日、最初の確定日 2011年3月21日、報告日 2011年3月21日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年3月13日にザバイカリエ地方で口蹄疫のアウトブレイクが発生した。感染の疑い例ウシ1518頭、ヒツジ2865頭、ブタ73頭、確定例ウシ183頭、ヒツジ0頭、ブタ1頭、死亡例0頭、屠殺例0頭であった。
35	口蹄疫	ProMED-mail 20110626.1952	ベトナムにおける口蹄疫の報告。ベトナムの39州以上の地域で口蹄疫のアウトブレイクが発生し、15万頭以上のウシが感染したことが2011年6月24日の動物衛生局会議にて報告された。45000頭以上が死亡または処分され、この中には、パッファロー5000例以上、ウシ938例、ブタ37 760例、ヤギ329例が含まれていた。
36	ウイルス感染	Emerging Infectious Diseases. 17(2011)1417-1420	米国における新種のアレナウイルス感染の報告。米国で急性中枢神経疾患や鑑別不能型熱性疾患の患者1,185例中41例(3.5%)から抗ホウイトウォーターアロヨウイルス(WWAV)抗体又は抗リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)抗体が検出された。ペア血清サンプルの抗体価の分析結果から、ノースアメリカンタカリベセロコンプレックスウイルス(NATSV)が2例、LCMVが3例の疾患原因であると示唆された。この研究結果より、NATSVもLCMVと同様に米国内でヒトの疾患原因となることが明らかとなった。
37	ウイルス感染	J R Soc Interface. Feb 23, 2011	マレーシア及びシンガポールの家畜におけるニパウイルス(NiV)感染に関する報告。1998-1999年にNiVによる脳炎のアウトブレイクが起きたマレーシアにおいて、アウトブレイク前後のブタ農場の家畜生産状況を調査した。その結果、反復して起きた野生動物(オオコウモリ)からのNiVの導入により、ブタにおけるNiV感染動態が変化していたことが示唆された。最初のNiV導入時は爆発的な流行によりウイルス自体も消滅する結果になったが、後に起こったウイルス再導入の際には、ウイルスは免疫を獲得した家畜に持続感染を起こすようになったため、その結果ヒトへの感染が増加したことが推測された。
38	ウイルス感染	OIE 2011 March 4	ペリーズにおける水疱性口内炎:発生日 2011年2月21日、最初の確定日 2011年3月3日、報告日 2011年3月4日、原因 水疱性口内炎ウイルス。2011年2月21日にスタンクリークで水疱性口内炎のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて、感染の疑い例17頭、確定例7頭、死亡例0頭、屠殺例0頭であった。
39	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	http://ca.reuters.com/article/domesticNews/idCATRE7233JT20110304	カナダにおけるBSE感染牛の報告。2011年2月18日、カナダ食品検査庁は77月齢の乳牛がBSEに感染していたことを報告した。乳牛は処分され、ヒト及び動物の食糧システムには供されなかった。今回でカナダ国内18例目の報告となった。
40	黄色ブドウ球菌感染	Clinical Medicine and Research	米国の飼育動物が保有するMRSAの遺伝型に関する報告。米国中西部及び北東部において、2006年から2008年にかけて飼育動物(ネコ、イヌ、ウマ、ブタ)から分離されたコアグラゼ陽性ブドウ球菌533株について調査されたところ、66例(12.4%)が黄色ブドウ球菌であり、そのうち24例(4.5%)がMRSAであった。MRSAの内訳は、イヌ12例(2.5%)、ネコ6例(12.5%)、ウマ5例(42%)、ブタ1例(50%)であった。MRSA株について遺伝子型分析を行った結果、USA100が12例、USA300が4例、USA500が5例、USA800が3例に分類された。ネコとイヌが保有していたMRSAは遺伝子型及び病原性プロファイルが類似していた。また、今回ブタから軟部皮膚組織に感染を生じるUSA300型が検出され、ブタにおける初めての報告となった。ヒトMRSAクローンがペットに確認されたことから、ヒトから動物への伝播が考えられる。

感染症定期報告 感染症別文献一覧表(医療機器) (平成23年10月1日～平成24年3月31日)

ID	感染症(PT)	出典	概要
41	黄色ブドウ球菌感染	Health Protection Report weekly report. Jun 10, 2011	現在の分子スクリーニングでは検出されない新規のMRSAに関する報告。英国において、MRSAの新規mecA遺伝子のホモログが、ヒト及びウシのS. aureusから確認された。これらの分離株は、オキサシリンとセフォキシチンに対して通常の耐性より低い耐性を示した。これまでに、この遺伝子はS. aureusの5つの異なる系統で確認されており、系統間で伝播する可能性が示唆される。
42	黄色ブドウ球菌感染	The Guardian. 2011 Jun. 3	MRSA新規株の感染性についての報告。2007年、イングランド南西部の乳牛において、新型のMRSA株が発見された。その後英国、アイルランド、デンマーク、及びドイツにおいてヒトからも検出され、現在も拡大しているとみられる。重篤例は少ないが、この新型株はヒトに対して血液感染症を引き起こし、イングランド及びスコットランドにおけるヒト感染は昨年12例認められた。新型株は一般的な株と遺伝子構成が異なるため、MRSA確定診断に使用する検査では検出できない可能性がある。
43	炭疽	OIE 2011 Nov 25 The Pig Site. Nov 28, 2011	クロアチアにおける炭疽:発生日 2011年11月12日、最初の確定日 2011年11月22日、報告日 2011年11月25日、原因 炭疽菌。2011年11月12日にSisacko-Moslavacka郡で炭疽のアウトブレイクが発生した。感染の疑い例ウシ7頭、ウマ4頭、ブタ6頭、確定例ウマ1頭、死亡例ウマ1頭、屠殺例ウマ1頭であった。
44	炭疽	ProMED-mai 20110824.2578	中国における炭疽の報告。中国保健当局は2011年8月23日、遼寧省で皮膚炭疽の患者2例が確認され、他にも感染疑いが33例あることを明らかにした。中央検査機関で細胞検体を検査した結果、患者2例の陽性が確認されたと発表した。感染及び感染疑いの35例の患者は全員が入院となった。患者らは、感染したウシとの皮膚接触により感染したと見られている。
45	結核	ProMED-mail 20110717.2170	英国におけるウシ結核の報告。英国ウェールズの3か所の農場において、ウシ結核に感染したブタが確認された。処理場において感染が疑われたすべてのブタについて、当局による検査が行なわれている。
46	セラチア	Am J Infect Control. 39(2011)521-524	米国におけるヘパリン製剤が原因となったセラチア感染症に関する報告。2007-2008年、米国9州においてシリンジ充填のヘパリン製剤によるセラチア菌感染が162例発生し、原因製剤のリコールが行われた。このアウトブレイクを受けて、3つの医療機関の57例の患者について臨床的影響の調査が行われた。その結果、全ての患者にセラチア症の症状が発現しており、治療として抗生物質が投与されていたが、1例の患者が死亡していた。
47	ブルセラ症	The Pig Site. Nov 11, 2011	ドイツにおけるブタのブルセラ症の報告。2011/11/9、ドイツ獣医局はシュレーズヴィヒ=ホルシュタイン州においてブタがブルセラ症に感染したことを報告した。感染疑い例は1020例であり、確定例は1例である。死亡例は確認されていない。
48	レプトスピラ症	The Pig Site. Sep 9, 2011	英国のブタにおけるレプトスピラ症の報告。英国動物衛生・獣医学研究所(AHVL)により、イングランド南西部の養豚場において、レプトスピラ症が発生したと報告された。黄疸を呈した新生児のブタにおいて、腎臓検体のPCR検査によりレプトスピラ菌に陽性反応が示された。現在、地域の野生動物について調査し、感染経路の特定が進められている。
49	旋毛虫症	ProMED-mail 20110724.2235	ラトビアにおける旋毛虫症の報告。旋毛虫による豚肉の汚染が確認されたため、ラトビアの中央市場において豚肉の販売が禁止された。複雑な供給ラインのために感染源が追跡できずにいる一方で、6例目の旋毛虫症患者が報告されている。
50	旋毛虫症	ProMED-mail 20110821.2544	アルゼンチンにおける旋毛虫症の報告。アルゼンチンのSan Justoで、35例の患者が発生した旋毛虫症アウトブレイクの原因がソーセージであったことが発表された。ソーセージの製造者はブラジル人で、現在、すべての材料が差し押さえられている。

感染症定期報告 感染症別文献一覧表(医療機器) (平成23年10月1日～平成24年3月31日)

ID	感染症(PT)	出典	概要
51	旋毛虫症	ProMED-mail 20111022.3147	アルゼンチンにおける旋毛虫症の報告。2011年10月21日、アルゼンチン国立北東大学の研究チームは、コリエンテス州で初めて複数のブタにおける旋毛虫症アウトブレイクを確認したと発表した。当局は研究チームに対し、ヒトの旋毛虫症症例の調査を行うよう要請している。
52	旋毛虫症	ProMED-mail 20111122.3427	チリにおける旋毛虫症の報告。チリのChan-Chanにおいて、豚肉の摂取が原因と疑われる旋毛虫症が発生し、検査で診断が確定された。チリ保健当局は、出荷元がはっきりしない肉を摂取しないよう市民に呼びかけている。